

《全体コンセプト》 自然とともに歩む安佐北を「ふるさとと想うヒト」がそだち・育む あそびの場 “あ・SORA”

地域特性が多様な世代の交流をつむぐあそびの空間

広島市の北部に位置する安佐北区は太田川水系の中流域にあり、都市圏に隣接した中山間地域を含む豊かな自然と水に恵まれた地域です。地域内の「可部」「安佐」「高陽」「白木」の4地区にはそれぞれ歴史と文化の軌跡が数多くあり、これを後世に伝える取り組みが地区ごとに継続されてきた地域でもあります。古くから人々が暮らし、自然とともに歩んできた“くらす場”＝それが安佐北区です。

多目的交流広場には、この地域特性を想起させる仕掛けをほどこします。安佐北区を知り・集い・交流を生む場を設え、やがて親となる若者や子育て世代や来訪者の心に残る場を創出します。ここでの経験が、安佐北区をふるさとと想うヒトを育てていきます。

・歴史と現代の融合

広場のシンボルとして大型螺旋回廊遊具「山城」を制作し、ウッドデッキに「舟運」、店舗やトイレに「町屋」の要素を取り入れてデザインし、地域とまちの歴史を想起させます。

・豊かな自然

大型遊具の木部に安佐北区や近隣の木材（間伐材）を使用し、螺旋回廊遊具と階段デッキ&テラスで構成するオリジナル複合遊具を制作します。

・地区の出会い

安佐北区4地区の地域特性＝中世から交通と商業の要衝であった「可部」、神楽や古道めぐりやが盛んな「安佐」「白木」、団地群で構成される「高陽」を回遊路でつなぎ、地域全体のつながりを表現します。

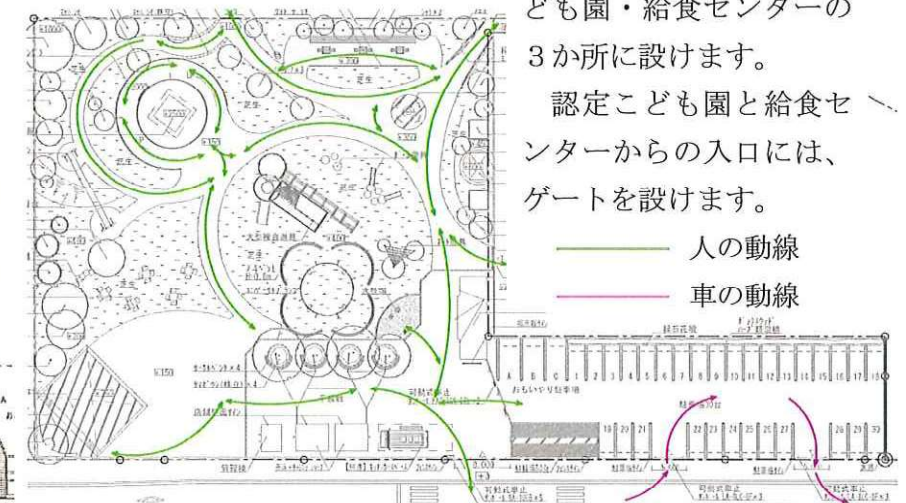
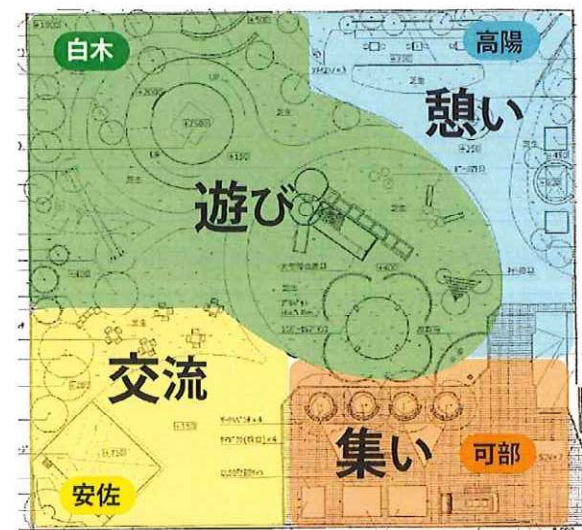
■脱炭素社会や持続可能な社会の実現及びユニバーサルデザインに配慮した計画

木部や遊具に地域の間伐材を活用し、里山保全と水源保護に貢献します。現在、安佐市民病院跡地に残っている石は傾斜面等の石積みに組み替え、大きな樹木は小型遊具に、細い木や枝などはチップ化して回遊路の資材に活用します。照明はすべてLEDとし省エネを実現します。円形のユニバーサルブランコを設置し、回遊路やスロープは幅を広くとり、多様な世代が心地よく過ごせるインクルーシブな遊び場を創出します。



■ゾーニングと動線計画

広場は「遊び」「憩い」「集い」「交流」の4つのゾーンで構成し、回遊路でつなぎます。回遊路は緩やかな曲線で利用者を全ゾーンに誘い、かつ、移動時の安全を確保します。また、隣接施設や駐車場との関係性に配慮し、トイレや店舗など目的の施設にアプローチしやすい動線も実現します。



入口は、正面・認定こども園・給食センターの3か所に設けます。認定こども園と給食センターからの入口には、ゲートを設けます。

— 人の動線
— 車の動線